商店街は自分で何かをするところ

縁起のいいまち上溝は年中イベント

上溝商店街振興組合
理事長 **鈴木 崇之**さん

上溝商店街振興組合（中央区上溝）は、明治3年（1870年）開設の上溝市場を発祥とする歴史ある商店街です。江戸末期から続く上溝夏祭りは、現在でも2日間で40万人の来場者を集め、他にも溝の酉の市、溝のだるま市など伝統のイベントが盛りだくさん。県などが実施する表彰制度「かながわ商店街大賞」の2021年度優秀賞にも選ばれています。意外なことに歴史と伝統の商店街は、常に新しい試みに挑戦しているとか。2019年に43歳で就任した鈴木崇之理事長に話をうかがいました。

―理事長に就任した直後にコロナ禍に直面しました。

「前理事長が急に亡くなられて、何も分からなかったのですが、前年まで自治会長をしていた私が引き継ぎました。まず1年は伝統を継承したのですが、2年目はコロナで何もできません。加盟店、特に飲食店の皆さんは大きな影響を受けていましたから、新しく何か考える必要がありドライブスルー方式の『みぞめし』というイベントを開きました。商店街の駐車場を会場にして、お弁当やお菓子などをテイクアウト販売。上溝商店街のメンバーだけでなく、近隣の店舗にも参加してもらいました」

―あの頃、行政も民間もイベントは軒並み中止になっていました。勇気がありますね。

「商店街の動きを止めてはいけないと思ったんです。イベントをやってはいけないのではなく、感染症対策を取ればできることがあると考えました。通常の花火大会が中止になるなか、10月に事前告知なしで打ち上げ場所非公開の『さがみはら元気花火』を打ち上げたり。一番大きかったのは2020年12月に始めた『溝の七福神』です。上溝商店街150周年の年なのに夏祭りもできない。ならばと年末の町に突然、七福神が現れるというわけです。実は石像は数年前から用意していました。七福神巡りは密にならないし、御朱印を押すポイントとして商店を回っていただくよう工夫しました」

―毎月第3日曜日の朝市など、すべて商店街メンバーの手作りイベントは大変では。

「商店街は各店舗に何かをしてくれる互助団体ではなく、自分たちの店を置くこの街に対して何かをする〝まちづくり団体〟だと思います。朝市も30店舗ほど出店するのですが、商店街メンバーだけでなく、近隣の目立つ人気のお店とか、地域の農家さんと直談判して出店してもらうと、インスタグラムなどを使ってそれぞれのお店がそれぞれのお客さんを連れてきてくれます。朝市の来場者は約400人とコロナ前から倍増しました。SNSには力を入れています。私自身が書き込んでいる商店街のインスタグラムはフォロワーが7300、X（旧ツイッター）が同6300。まだまだですが、毎日必ず情報発信しています。各店舗のみんなにも勧めています」

―「商店街」という会社を経営しているようです。

「商店街同士も連携を取って町の認知度を上げ、住民のみなさんに、あの町に行けば必ず何かやっている、と思ってもらうことが大事です。有名な夏祭りの他にも、酉の市やだるま市や七福神や朝市もありますよと。ちょっとずつ、いろんなイベントに手を入れていきたいですね。相模原でだるま市が立つのはここだけ。酉の市も2カ所だけです。商店街のコンセプトは『縁起のいいまち上溝』。この間も地元の大型店の宝くじ売り場で大当たりが出たんですよ」

新年恒例の福を呼ぶ「溝のだるま市」は、本年は1月14日(日)午前11時から、上溝商店街中央駐車場・本町自治会館前で開催いたしますので、ぜひ足をお運びください。